

事 務 連 絡

平成 28 年 8 月 2 日

各都道府県消防防災主管部（局）長 殿

消防庁救急企画室長

熱中症予防対策の強化について

平素より、救急行政の推進について御理解、御協力いただき御礼申し上げます。

7月28日ごろに関東甲信、7月29日ごろに東北地方が相次いで梅雨明けし、7月31日には、最高気温が35度以上となる猛暑日となった地点が、今年最多の58地点を記録しました。また、全国の消防本部からの報告によると、4月25日の調査開始からの累計で、救急搬送人員数が25,112人、そのうち初診時において33人が死亡と確認されています。（7月31日現在）

気象庁の向こう1か月の天候の見通し（7月30日～8月29日）によると、1か月の平均気温は、北日本、沖縄・奄美で平年より高く、東日本、西日本で平年並みか平年より高い見込みとなっており、政府が定める7月の「熱中症予防強化月間」は終わったものの、今後更なる熱中症に対する予防啓発が必要と考えられます。

このことから貴職におかれましては、貴管内市町村（消防の事務を処理する組合を含む。）に対して、消防庁HP掲載の熱中症予防啓発コンテンツ等を活用し、消防機関主催の各種イベント、自主防災訓練及び応急手当講習等、あらゆる機会を通じて積極的に予防啓発を行っていただきますよう、引き続きよろしく御指導くださいますようお願い致します。

消防庁HP「熱中症情報」http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

参考資料1：消防の動き7月号「熱中症予防啓発コンテンツ作成のお知らせ」

参考資料2：消防の動き8月号「熱中症による救急搬送状況」

【お問い合わせ先】

消防庁救急企画室

森川専門官、勝森係長、足立事務官

電話：03-5253-7529（直通）

E-mail：kyukyurenkei@ml.soumu.go.jp



熱中症予防啓発コンテンツ作成のお知らせ

救急企画室

1. はじめに

消防庁では、平成20年から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員数の調査を行うとともに、熱中症予防の普及啓発活動の推進に取り組んでおります。しかし、全国で毎年4万人以上の方が熱中症により救急搬送されており、夏期の救急業務の円滑な推進のためには、更に熱中症予防の啓発活動に取り組んでいく必要があります。

2. 熱中症予防啓発コンテンツ作成の経緯

消防庁では、これまでに熱中症による救急搬送人員数調査や熱中症対策リーフレットなどを作成し、消防庁ホームページやTwitterなどで情報発信してきました。熱中症予防啓発のポイントは、暑い日や時間帯、熱中症予防を訴えたい対象者を意識した啓発が重要です。それらを踏まえて、熱中症予防啓発のための予防啓発ビデオ、予防啓発イラスト、予防広報メッセージを作成し、7月の「熱中症予防強化月間」に併せて消防庁ホームページに掲載しました。

3. コンテンツの紹介

(1) 予防啓発ビデオ

熱中症予防のポイント等を説明した動画を2種類（5分と15秒）作成しました。5分の動画は、応急手当の講習や企業の研修等、15秒の動画はスポットCMやSNS等で御活用ください。また、住民の方にも広く御覧いただけるよう各自治体のホームページや広報紙等に掲載して御案内ください。

(2) 予防啓発イラスト

全国消防イメージキャラクターの「消太」を活用して熱中症予防を呼び掛けるイラストを30点作成しました。各自治体で作成する予防啓発資料やSNS等で御活用ください。

(3) 予防広報メッセージ

暑い日や時間帯に効果的な広報ができるよう熱中症予防の広報メッセージのデータを20例作成しました。高温注意情報が発表された日や気温が30℃以上となっている時間帯、屋外イベントが開催されている地域など、

消防車、救急車、消防団車両等で、巡回するときに御活用ください。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も見据えて日本語以外にも、英語、中国語、韓国語版も作成しました。

4. おわりに

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。全国の消防本部においても、関係機関と連携を図りながら、これらのコンテンツを利用して、地域の住民に対して熱中症予防啓発活動を積極的に展開していただけることを期待します。

【参考】消防庁ホームページ「熱中症情報」コンテンツ掲載画面

このスクリーンショットは、消防庁の「熱中症情報」コンテンツの掲載画面を示しています。画面には、5分と15秒の予防啓発ビデオのサムネイル、イラスト、および予防啓発メッセージの紹介が確認できます。また、メッセージの表も一部表示されています。

メッセージ例	日本語	英語	中国語	韓国語
こちらは消防庁です。7月は熱中症予防強化月間です。熱中症の予防には、「水分補給」が大切です！喉の乾きを感じる前に、こまめな水分補給を行ってください！特に高齢者の方は、鼻を拭き拭く、室内でも熱中症になることもあるので十分注意しましょう！	[画像] [視聴] ダウンロード	[画像] [視聴] ダウンロード	[画像] [視聴] ダウンロード	[画像] [視聴] ダウンロード
※啓発なしVerとは、全てのメッセージの題名について「こちらが消防庁です。」の一文が削除されたものです。消防車以外の方でも利用でよろしくご活用ください。				

問い合わせ先

消防庁救急企画室 森川、勝森、足立
TEL: 03-5253-7529

熱中症による救急搬送状況

救急企画室

1 はじめに

7月中旬からの梅雨明け地域の広がりとともに、全国各地で最高気温が35度以上の猛暑日が観測されるようになりました。気温の上昇に伴い、熱中症による救急搬送人員数も増えていきます。熱中症の症状は、めまいや筋肉痛等の軽度のものから、頭痛や吐き気等の中等度のもの、また意識障害や腎機能障害、血液凝固異常を起こし、死に至る重度のものまで様々です。外界の環境に影響を受けやすく、また誰にでも起こりうる病態です。しかし、適切な予防対策を講じれば、その発症を防ぐことができます。

この度、本格的な夏が到来し、引き続き熱中症対策が必要とされるこの時期に、皆様の熱中症に対する関心を高め、積極的な予防啓発活動に努めていただくことを目的として、今年の熱中症による救急搬送状況について、最新の速報値（7月25日時点）から報告します。

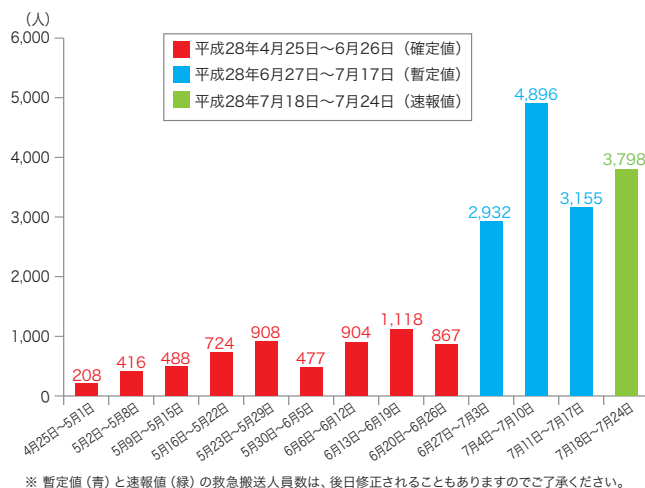


図1 熱中症による救急搬送状況（週別推移）

2 熱中症による救急搬送状況（週別推移）（図1）

5月上旬（5月2日～8日）には、400人以上の救急搬送人員数がみられ、5月中旬以降には、最高気温30度以上の真夏日が観測される地域が増えるようになり、マラソン大会や運動会等の屋外イベントで少年の熱中症

による救急搬送事案がみられました。6月は、梅雨が開けた沖縄県において救急搬送人員数が増える状況がみられました。7月に入り、いくつかの都道府県で猛暑日が観測され、6月27日～7月3日に2,932人（対前年比約5.4倍）、7月4日～10日は4,896人（対前年比約3.7倍）となりました。また、最新の速報値（7月18日～24日）は、3,798人となりました。急激に気温が上昇するような環境の変化に、体の順応が追いつかなかったことも、救急搬送人員数の増加の要因のひとつと考えられます。

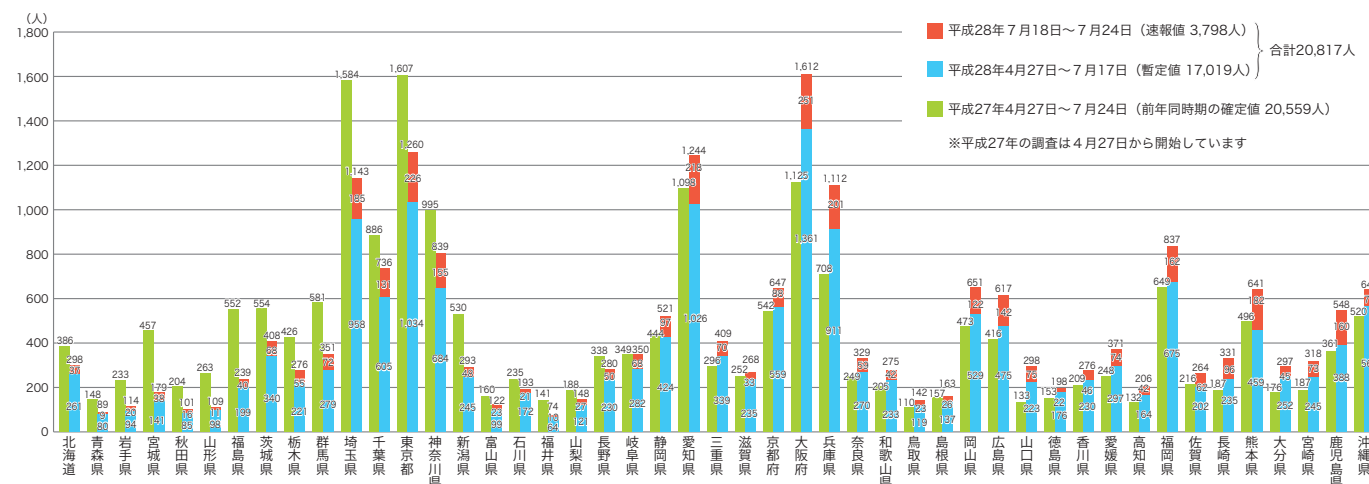


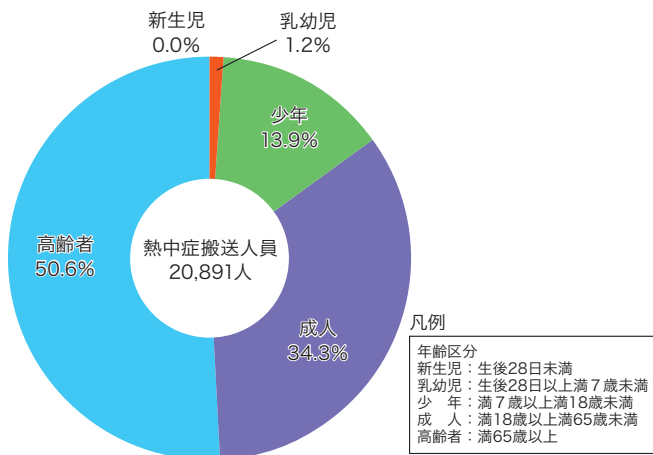
図2 熱中症による救急搬送人員数（都道府県別昨年比）

3 熱中症による救急搬送人員数の総数 (都道府県別昨年比) (図2)

今年の第1週から第13週(4月27日から7月24日)までの熱中症による救急搬送人員数は20,891人です。4月27日から7月24日までの期間で昨年と比較すると、今年の方が258人多くなっています。

4 年齢区分ごとの救急搬送人員数 (図3)

今年の第1週から第13週までの熱中症による救急搬送人員数の合計20,891人のうち、高齢者が10,572人で最も多く、次いで成人7,157人、少年2,909人、乳幼児253人となっています。救急搬送人員数の半数近くを高齢者が占めます。高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくいことが原因のひとつと考えられます。高齢者には、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

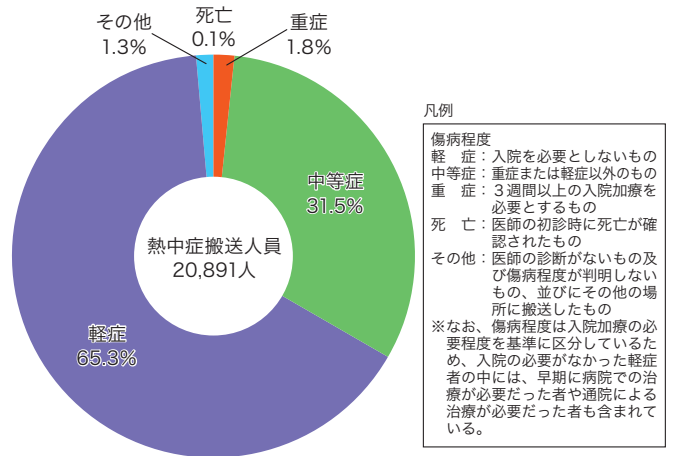


※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

図3 年齢区分別搬送人員数

5 傷病程度ごとの救急搬送人員数 (図4)

今年の第1週から第13週までの傷病程度ごとの救急搬送人員数の合計20,891人のうち、軽症が13,634人で最も多く、次いで中等症6,581人、重症372人、死亡24人となっています。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化をします。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。



※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

図4 傷病程度別搬送人員数

6 熱中症予防の啓発について

熱中症予防の啓発は、暑い日や時間帯、熱中症予防を訴えたい対象者を意識した啓発が重要です。それらを踏まえて、消防庁では、消防本部や熱中症予防を啓発する関係機関が熱中症予防の啓発活動を積極的に行っていたり、ただけでなく熱中症予防啓発コンテンツを作成しました。1つ目は、熱中症予防のポイントや応急手当等を分かりやすく説明した予防啓発ビデオ(5分と15秒)です。2つ目は、全国消防イメージキャラクターの「消太」を活用した熱中症予防を呼び掛ける予防啓発イラスト(ぬり絵もあり)です。3つ目は、暑い日や時間帯に、消防車両や防災無線等を使い効果的な予防啓発活動ができるように作成した予防広報メッセージです。これらのコンテンツを活用し、積極的に予防啓発活動に取り組んでいる消防本部がみられます(参考情報)。

7 おわりに

熱中症を理解し、予防行動をとることで、熱中症は発症や重症化を防ぐことが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症弱者といわれる高齢者や子供を守ることができます。

消防庁ホームページでは、熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防啓発コンテンツを掲載しています。全国の消防本部においても、関係機関と連携を図りながら、これらのコンテンツを利用して、地域の住民に対して熱中症予防の啓発活動を積極的に展開していただけることを期待します。

【参考情報】 熱中症予防啓発コンテンツを活用した取組事例

《鹿児島市消防局》 熱中症予防啓発ビデオとイラストを、鹿児島市役所のホームページ「熱中症を予防しよう！」に掲載しています。

熱中症を予防しよう！

「熱中症は予防できる」

毎年、この季節になると熱中症が発生しやすくなります。鹿児島市でも、熱中症で救急搬送される方が増えてきております。下記の動画を参照していただき、「熱中症は予防できる」を合言葉に、暑い夏を乗り切りましょう。

熱中症予防広報動画

- 15秒バージョン




- 5分バージョン（推奨）



《下関市消防局》 熱中症予防啓発ビデオとイラストを、下関市役所のホームページ「熱中症予防に関するご案内」に掲載しています。

熱中症予防に関するご案内

公開日: 2016年7月19日

ツイート いいね! 0 G+ 0 チェック

(お知らせ)
市民の皆様へ

熱中症予防のため、総務省消防庁 救急企画室が『熱中症情報』を公開いたしました。

熱中症に関する「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」が掲載されています。

是非ご覧いただき、熱中症予防に努め、健康な毎日を送ってください。

リンク

▶ 『熱中症情報』(予防啓発ビデオほか) (総務省 消防庁HP)



消防庁熱中症情報 http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

※熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。

問い合わせ先

消防庁救急企画室 森川、勝森、足立
TEL: 03-5253-7529